

わがまちの お宝探訪

諏訪市有形文化財

白狐稻荷神社

(諏訪市)

上川に架かる鷹野橋の右岸側に鎮座する。かつては「白狐島」と呼ばれていた。小和田の灌がい用水、高島藩主の御用水とした川を前にたたえる。歓請年代に関する史料はないものの、灌がい用水の引き入れ口に稲荷社をまつことは中世以降に全国的に見られ、江戸時代中期と考えられている。

社殿は一箇社流造りで、こけら葺きの屋根。大隅流の宮大工伊藤亀蔵らによって造られたと考えられており、「彫刻が一番の自慢」(宮坂清宮司)という。正面虹梁は竜の彫刻、海老虹梁は波の透かし彫りの中に鯉を入れる。水に関する波、竜、鯉で題材を統一。流麗で繊細な彫刻が目を引き。

古くから五穀をつかさどる神としてまつられ、2月の初午祭には地元地区の氏子や県内外の商業者らが参列。五穀豊穰や商売繁盛、地域の安泰を願う。神事後には宮坂宮司の案内で、多くの参列者が写実的で重厚感のある社殿の彫刻を見物している。



1988年10月18日指定
所在地／諏訪市四賀普門寺
所有者／白狐稲荷神社

連絡先／諏訪市生涯学習課文化財係
電話0266・52・8522